#### 通算107号

## 昭和大学歯学部だより 2012. 10号 2012. 10. 31発行



発行責任者: 歯学部長 宮﨑 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄 〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000 ホームページ: http://www.showa-u.ac.jp



#### 研究のより活性化を目指して

歯学部長 宮﨑 降

10月8日に. iPS 細胞の開 発者である京都大学の山中伸 弥教授が今年のノーベル医学 生理学賞を受賞することが発 表され、日本中が沸きました、 山中教授は, 高校時代は柔道, 大学時代はラグビーに熱中し. 医師や研究者としてもいくつも



の挫折を乗り越えながら、最終的に患者さんに貢献し たい気持ちと夢を追い続けて栄冠を手にされたという ことで、日本人に希望と元気を与えてくれました。

本学においては、大学全体で研究の活性化に取り 組んでいます. 毎月, 教育研究等奨励推進委員会を 開催し、理事長、学長、各学部長ほかが出席して、研 究ならびに教育プロジェクトを含めて、大型競争的資 金への申請を検討しています。また、共同研究促進 会議を開催して、学内外の共同研究プロジェクトや大 型研究機器の導入計画等を審議しています.

歯学部においては、研究活動委員会(上條竜太郎 委員長)が中心になり、研究プロジェクトの申請や、 共同研究機器の導入、科学研究費の申請支援等を しています. 教育改革に忙しい10年間でしたが、幸 いなことに歯学部の研究活動は年々活発になってい ます. とりわけ. 優れた歯学研究を通じて歯科医療の 発展と患者の健康回復に貢献したいと思い. 学部の 力を合わせて重点研究に取り組んできました.

平成17年からの文部科学省ハイテクリサーチセン ター整備事業を皮切りに、現在、文部科学省の私立 大学戦略的研究基盤形成支援事業として、「分子的 理解に基づいた口腔癌の先端的研究(口腔癌包括 研究センター)」「デンタルイノベーションを目指した集 学的研究拠点形成(大学院歯学研究科)「次世代型 顎口腔再生医療の研究開発拠点形成(顎口腔組織 再生医学研究センター)」の3つの研究プロジェクト. ならびに日本私立学校振興・共催事業団の学術研究 振興資金「唾液腺機能障害の分子機構解明と機能 回復を目指した先端的研究」について、学部の総力 をあげて重点的に取り組んでいます.

研究者が個人レベルで申請する文部科学省の科 学研究費については、平成24年度は新規と継続を 合わせて約100件が採択されました。この採択件数 は10年前に比べて1.5倍に増えています。教員数

は増えていないので、各教員が頑張っている証と思 います.

大学全体の研究機器についても、この10年間で、 最新の機器が導入され、研究環境は著しく向上して います、教員に加えて、本歯学部だよりでも、たびた び紹介されているように、大学院生はもとより学部学 生の研究発表や、各種学会等での受賞も日常的にな っています、今後、山中教授の快挙を励みにして、本 歯学部の若い教員や大学院生が、さらなる研鑽を積 み研究がますます活性化することを期待しています.

#### 昭和大学ホームカミングデーが開催 されました 口腔生化学講座 上條 竜太郎

第5回昭和大学ホームカミングデーが10月7日 (日)、旗の台50年記念館において、旗が丘祭・いぶ き祭に合わせて開催されました。 卒後50年の医学部 30回生, 卒後25年の医学部55回生, 歯学部5回生, 薬学部18回生が招待され、約180名が参加しました。 式典は、昭和大学管弦楽団の歓迎演奏に始まり、片 桐敬学長, 小口勝司理事長, 仲保徹保健医療学部 同窓会長からのご祝辞を賜った後に, 卒業後の社会 貢献に対して、ゴールデン表彰(卒後50年)、シルバ 一表彰(卒後25年)の授与が行われ、各学部の代表 者に記念の盾が渡されました。 そして招待クラスを代 表して, 山家忠幸先生と岡松孝男先生(医学部30回 生)からご挨拶をいただきました. その後, グリークラ ブとともに全員で校歌を斉唱した後, 応援指導部が 卒業生へのエールと題して、演舞を披露してくれまし た、式典に引き続いて同会場で懇親会、その後も二 次会(高輪プリンスホテル). 三次会(品川プリンスホ テル)を開催し、約200名の同期生が学部の枠を超 えて旧交を深めることとなりました.

最後に、田中一正委員長をはじめとする実行委員 会の皆様と、早朝からご準備いただいた総務部総務 課の皆様に心から御礼を申し上げます.



#### 第10回4大学歯学部交流会が開催 されました

歯学部教務課 久米 徳明



10月12日(金)に岩手医科大学に於いて第10回四大学歯学部交流会が開催されました。本学からは、宮崎学部長・上條学生部長・米山保健管理センター長と私が参加し、北海道医療大学歯学部、岩手医科大学歯学部、福岡歯科大学の先生方や教務事務職員と様々な意見交換などがありました。

当日は、まず岩手医科大学 小川理事長・学長、 三浦歯学部長の両先生から開会挨拶がありました。 引き続き「学生及び教員のメンタルヘルスの対応について」をメインテーマに、岩手医科大学附属病院長 酒井明夫教授から、精神科医の立場から異常な精神 現象(うつ病と自殺)について30分の講演があり、後 半30分を岩手医科大学健康管理センターの藤澤臨 床心理士から実際の相談現場での対応(・自分から 相談に来られない方・受診勧奨・学業不振・不登校学 生・予防啓発・職員に対する取り組み)などについて 具体的なお話があり、質疑応答の後、教員は各大学

の現状や対応について の説明と全体討議が行 われました.本学からは、 米山保健管理センター 長が、本学における学 生のメンタルヘルスへ の取り組みについて講 演されました.



事務職員は講演の後,教員とは別室で,クラス担任,指導担任制度・留年生などに対する取り組み・試験問題の管理,取り扱い・編入,転入学・入学志願者対策などについて具体的な報告と意見交換等を行いました.

その後の懇親会では昭和大学のメンタルヘルス対応がとても先進的であり、分かりやすい説明で参考になったとのお言葉をいただき、また、多くの方々と情報交換ができ有意義な時間を過ごすことができました。今回参加させていただけたことに感謝いたします.

#### 昇任•採用

広報委員長 井上 富雄

山口 徹太郎 准教授(歯科矯正学講座) 石浦 雄一 講師(インプラント歯科学講座)

#### 試験問題統合管理システムが稼働 します

教育推進室長 片岡 竜太

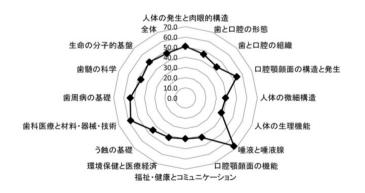
学生が入学から卒業まで、学んだ事を毎年しっかり積み上げていくことが、卒業時に必要なコンピテンシーを身につけ、卒業試験、国家試験を突破するのに最も重要です。そこで歯学部では進級試験を導入して、各学年で特に重要な内容を出題して、学んだ内容を確実に積み上げやすくしています。

今年度の夏のワークショップ教授会のメンバーが2日間ディスカッションをし、進級試験のあり方を見直しました。その結果試験問題成績統合管理システムを今年度から進級試験に、来年度から卒業試験に導入する事が決まりました。すなわち、2年生から6年生までの試験問題と学生成績はすべて一元化して、本システムで管理することになりました。

本システムでは、作問とブラッシュアップをすべて Web 上で行うため、作問者とブラッシュアップを行う査 読者とのやりとりはすべてシステム上で可能になり、作問者は査読者から直接フィードバックを受けることができます。また過去問は平均正答率や識別係数などの情報を付帯して、システム内にプールされるので、過去に出題した問題の難易度などを参考にしながら作問をすることができます。

試験終了後はただちに正答率や識別係数などの情報に加えて、学生毎に科目別成績をレーダーチャート化できるなど、成績判定委員会の資料としてだけでなく、指導担任による学生指導、またカリキュラムの見直しにも活用できることが期待されます。本システムを活用して、教員はより良い試験問題を作成することに専念し、良問をより多くプールすることができれば、学生も特に重要な内容を効率よく学習できるようになると大いに期待をしています。

ユニット	人体の発生と肉眼的構造	歯と口腔の形態	歯と口腔の組織	口腔顎顔面の構造と発生	人体の微細構造	人体の生理機能	唾液と唾液腺	口腔顎顔面の機能	福祉・健康とコミュニケーシ	環境保健と医療経済	う蝕の基礎	歯科医療と材料・器械・技術	歯周病の基礎	歯髄の科学	生命の分子的基盤	全体
学年正答率	65	75.8	66.2	69.1	63.9	66.1	63.8	66.1	56.8	38.1	62.4	54.5	64.2	55	67.7	63.3
個人別得点	43	7	14	15	20	25	9	11	9	1	11	48	7	5	54	279
個人正答率	66.2	70.0	56.0	75.0	50.0	50.0	90.0	55.0	45.0	20.0	55.0	64.0	70.0	50.0	67.5	60.7
個人偏差値	50.8	46.5	43.0	54.2	39.1	37.8	66.7	41.9	40.0	42.1	44.8	57.8	53.8	47.0	49.9	47.5



#### 大学院秋季入学式が開催されました

大学院運営委員長 佐藤 裕二

9月1日に大学院歯学研究科の秋季入学試験が行われました. 10月2日に旗の台1号館5階会議室で,新大学院生を迎えて,平成24年度昭和大学大学院秋季入学式が執り行われました. 歯学研究科は,メインである4月の春季入学では40名と非常に多くの入学者を迎えましたが,秋季は全学部で17名のうち,1名(歯科理工学専攻)と少し寂しい状況でした.緊張した面持ちで新入生を,先輩大学院生や教職員が暖かくサポートしてくれることでしょう. なお,来年度の春季入試は12月8日と2月16日です. さらに多くの大学院生が来てくれることを期待しています.



#### 第48回 ISO/TC106パリ会議に 参加しました

歯科理工学部門 玉置 幸道

ISO は国際標準化機構(International Organization for Standardization)の略称で、電気分野を除く工業製品の国際規格を策定するための民間の非政府組織です. ISO の下には192にも及ぶ TC(Technical Committee,専門委員会)があり、TC106は歯科専門委員会です. さらにその下にいくつかの分科会(SC)があり、本学の岡野友宏教授は SC3(歯科用語)で

日本代表をれてして、 ないはに、 ないはに、 ないはに、 ないでは、 をがわるです。 では、 をがわるです。



私は一昨年のリオデジャネイロ会議から SC1(充填・修復材料)の中に分類されている矯正装置の WG 13, 14に日本代表として参加しています. 現在は矯正用ワイヤーとバネに関する ISO 規格の制定が諮られています. 国際会議であるため会議前に議論される規格書のたたき台(Working Draft)を十分に理解して臨むのですが、毎度のことながらネイティブの激しい議論にはついていくことができずに苦労します. それ

でも出席を重ねていくにつれて挨拶を交わす知り合いも増え、英語が苦手な日本人でも優しく受け入れてくれる彼らの気遣いに甘え、会議中の議論で分からないところは休憩時にレクチャーを受けるなどして理解を深めています。

他に参加した SC8では日本からの提案(implant abutment の捩り疲労試験)が議論されましたが、接合部のネジの破折は捩じり力ではないなど反対意見が多く苦戦しています. ISO では提案に同調する国が少ないと新規業務からはずされるケースも珍しくありません. 今回も矯正用ブラケットと歯面との接着を評価する"接着せん断試験法"が審議されましたが、臨床的意義に乏しいとの辛辣なコメントが大半を占め、結局廃案となってしまいました. 議論はかなり激しいものがありますが、ひとたび決議がなされて終わってしまうと感情的なしこりなど微塵もないかのようににこやかに談笑しているのが、日本人としてはとても奇異に映ります. 来年はソウルでの開催です.

# 北部病院にマタニティ歯科学級・赤ちゃん歯科学級が開設されました

小児成育歯科学講座 井上 美津子



ティハウス)が開棟されました。かねてより、北部病院 にて妊婦健康診査・分娩を予定している方々を対象 としたマタニティ歯科学級・歯科検診と、出産後の親 子を対象とした赤ちゃん歯科学級を実施する計画を 検討しておりましたが、9月から実施の運びとなりまし た. 妊娠16週頃にマタニティ歯科学級を受講してい ただき、早めに歯科検診を受診していただくことで、 妊娠期に必要な歯科的知識を得るとともに、自分の 口腔内の健康状態や問題点を把握し, 必要な処置は 妊娠安定期に受けられるようにして妊娠期の口腔の 健康をサポートしようというものです. 歯科学級は歯 科病院の小児歯科が担当し,歯科検診は北部病院 歯科室のスタッフと歯科病院小児歯科のスタッフが分 担して行います. また. マタニティ歯科学級・歯科検診 を受けた方々を対象に、来年からは出産後6~9か 月くらいに赤ちゃん歯科学級も実施する予定です. 妊 婦の口腔の健康は、妊婦自身の口腔と全身の健康 に関わるばかりでなく. 胎児の発育や出産後の齲蝕 原性菌の伝播などにも関連します。 歯科学級や歯科 検診を受けていただくことで、少しでも安心・快適な妊 娠期を過ごすお手伝いができればと考えています.

### D1初年時体験実習が実施され ました

口腔生理学講座 望月 文子

9月3日(月)~9月21(金)にわたり、平成24年度 初年次体験実習が富士吉田校舎で行われました. 私 は、9月11~12日にかけて、学生の施設・病院等へ の送り出しと出迎え、ならびに歯学部学生に対する 「生活習慣と口腔の健康」という実習を担当しました.

学生は、実習 を行う施設・病 院毎に集合し. それぞれのバ スやタクシーに 乗り込み、出 発しました.朝 は元気に出発



した学生も、夕方、ヘトヘトに疲れ切って帰ってきまし たが、皆充実した実習を行ってきた様子で、半ば興奮 状態で今日の出来事を話してくれる学生や. 医療人 としての志を改めて見つめ直した学生もいました.

「生活習慣と口腔の健康」実習は、口腔衛生学講座 の渡邊賢礼先生のご指導のもと、口腔病理学講座の 山本剛先生と一緒に行いました。本実習は、健康な 生活を維持するために、日常生活における生活習慣 や口腔機能を理解してもらうことを目的とし、 歯磨き 圧測定, 咀嚼能カテストを行いました. 学生は大変興 味深そうに実習を行っており、歯磨き圧測定は、自分 自身の歯磨き圧だけでなく、被験者への歯磨き圧を 測定することで、患者さんに歯磨き指導するときにど のくらいの圧力で歯磨きを行えばいいのか、実感して もらいました.

今回の初年次体験実習が、学生一人一人の将来 の糧になることを希望します.

#### 行事予定

広報委員長 井上 富雄

11月 3日(火):推薦・編入入試

11月15日(木):創立記念日

12月 1日(土):昭和歯学会例会

12月 8日(土):大学院Ⅰ期入試

#### 受賞

#### 広報委員長 井上 富雄

- 日本歯科理工学会第59回学術講演会発表優秀賞 玉置 幸道(歯科理工学部門) 堀田 康弘(歯科理工学部門)
- ·第71回日本矯正歯科学会大会優秀発表賞 山口 徹太郎(歯科矯正学講座)
- ・第42回日本口腔インプラント学会優秀研究発表賞 代田 達夫(顎口腔疾患制御外科学講座)

## 第1回アジア・太平洋骨代謝学会 にて Young Investigator Award を 受賞しました

大学院4年(歯周病学専攻) 相澤 怜

9月2日から5日にかけて、オーストラリアのパース で開催された 1st Asia-Pacific Bone and Mineral Research Meeting with the ANZBMS 22nd Annual Scientific Meeting(第1回アジア・太平洋骨代謝学会 - 第22回オーストラリア・ニュージーランド骨代謝学 会学術大会)に参加して参りました.

今回,7月に開催された第30回日本骨代謝学会 学術集会にて ANZBMS 2012 Travel Award を受賞し たことから、本学会で発表を行う機会をいただきまし た. 学会の行われたパースという都市は、西オースト ラリア州の州都で、穏やかな気候と美しい景観で有 名な都市で、世界一美しく住みやすい街と言われて います. 学会会場近くにもスワンリバーという有名な 大きな川があり、広い公園と埠頭のある大変景色の きれいな場所でした.



会場に はオースト ラリアから の参加者 が多かった ものの. 日 本,中国や 韓国の他. アメリカか

らの参加者もおり, 国際学会ならではの活気を感じま した. 本学会では講演会場が 1 か所のみで. 同じ時 間に複数の講演が行われるという状況にならないた め、参加者が一堂に集まり、集中して講演を聞き、身 振りを交えた活発な討議が行われていたのが印象的 でした. 本学会で私は幸運にも Young Investigator Award を受賞し、口頭発表をさせていただきました。 私の発表も多くの先生方に聞いていただき緊張しまし たが、大変貴重な経験になりました。このような機会 をくださいました歯周病学講座の山本教授, 口腔生 化学講座の上條教授をはじめ、共同研究者の先生 方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます.

#### 編集後記 口腔生理学講座 中山 希世美

宮﨑学部長も巻頭言で触れられていますように、 今月は京都大学の山中伸弥教授のノーベル賞受賞 に日本中が沸きました. 私も自分の研究に対する姿 勢を改めて問い直す日々です.

末筆になりますが、今月もお忙しい中、原稿を執筆 下さいました皆様に心より感謝申し上げます.